

## 平成 30 年度 生活支援体制整備事業 第 1 回 第 1 層協議体 会議録

次第	1 開会 2 自己紹介 3 茅ヶ崎市の生活支援体制整備事業について 4 各地区の取り組み状況について 5 グループワーク 6 発表 7 閉会
日時	平成 30 年 8 月 22 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎 5 階 D 会議室
出席者氏名	松井 新吾 平本 哲也 菅野 京子 矢島 啓志 杉田 司 高田 麗 赤坂 真生 亀山 計次 習田 祐子 野口 新平 中戸川 正 林 正明 篠原 徳守 柏崎 周一 小山紳一郎 吉川 美香 田渕 明子 吉川 宗孝 藤尾 直史
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0 人

（会議の概要）

### 1 開会

**進行：茅ヶ崎市福祉部高齢福祉介護課 田渕 明子 介護保険担当課長**

**挨拶：茅ヶ崎市 夜光 広純 副市長**

皆様には日頃から福祉分野のみならず市政全般にわたり街づくりにご理解ご協力を賜りましてありがとうございます。

さて、茅ヶ崎市も高齢化率が 25%を超え、区分の上では超高齢社会に突入したといえます。また、高齢者はそれぞれのライフスタイルを持っています。その生活を支えるためには介護保険サービスのみならず各地区の実情に即した支え方がありますし、その担い手も必要になってまいります。当然やる気と体力のある高齢者は支える側としての役割を担っていただきたいと思います。

そうした中で、本市は茅ヶ崎市社会福祉協議会に委託し、各地区に「地域支え合い推進員」を配置しています。その推進員が各地区のサービスの担い手の発掘や支援を必要としている人とのマッチングなどを行っています。

皆様方には、市全体の課題がどこにあるのか、その解決のためにどうしたらいいのかご議論いただきたく思います。この事業は高齢者のため介護保険制度の中で実施するわけです。

一見新しいことを始めるようですが、幸い茅ヶ崎市では各地区にボランティアセンター

があります。13 地区にまちぢから協議会（自治会連合会）が発足し、自治会のみならずいろいろな立場の人が地域での課題を話し合う場ができつつあります。また、コーディネーター配置事業に取り組む人も徐々に増えてきているので、こういうことを進める土壌は整ってきています。

委員の皆様には大変なご負担をかけますが、10 年 20 年先を見据え超高齢社会を乗り切るためのお力添えをお願いいたしまして私の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくをお願いいたします。

## 2 自己紹介

順番に自己紹介

## 3 茅ヶ崎市の生活支援体制整備事業について

第 1 層地域支え合い推進員（茅ヶ崎市福祉部高齢福祉介護課 課長補佐）吉川 宗孝

## 4 各地区の取り組み状況について

第 2 層地域支え合い推進員（茅ヶ崎市社会福祉協議会 主査）藤尾 直史

第 2 層地域支え合い推進員は茅ヶ崎市社会福祉協議会で 12 名の地区担当職員で 13 地区を見ている。日頃は地区社協さんや地区ボランティアセンターさんの支援で活動している。

【「地域の支え合い推進シート」を基に体系的に説明】

## 5 グループワーク

4 つのグループに分かれてグループワークを実施。

## 6 発表（発表以外に出された意見は別紙のとおり）

### ○「1 グループ」：テーマ 1 買い物の困難

身体の問題として、ひざ腰、目が悪くなり文字が読みにくい（豚肉なのか鶏肉なのか細かいものが見えない）商品がたくさんあり選べない（塩 1 つでもいろいろある）重たい荷物が持てなくなっている。セルフレジでどうしていいかわからない。システムにお体や頭がついていかない点が挙げられた。

また、交通手段の問題として、移動手段がなくなって来た。電車に乗って行って帰ってくるだけで大変。大型店舗が出来たため逆に交通量が増え、歩いていく人が行きづらく危なくなった。車の運転をやめて行かれなくなった。という点が挙げられた。

最後に、買い物の環境の問題として、以前に比べて食品、衛生品、下着などニーズに合うものが一か所で済まなくなり、いろいろな所に行かなければならないのが大変である。行き慣れた店に行きたいが、店がつぶれて無くなってしまった。という点が挙げられた。

## ○「2グループ」：テーマ1 買い物の困難

1グループで挙げられた点以外では、高齢者は買い物に行くための身支度をするのが億劫であることや、マンションにエレベーターがないと体が元気でも最後の1歩のところで買いものに行きづらい。インターネットや配送サービスに慣れてないので利用できず、そうしたサービス情報を入手できない。後期高齢者の方は自分の目で選んで買いたい希望が強いとの点が挙げられた。

解決策の提案として、小出地区のような買い物ツアーのような乗合タクシーがあればよい。また、買い物に行けないのは独居の人ばかりでなく、同居の家族がいることで介護保険の生活援助サービスが利用出来ず、買い物同行支援が受けられない人でも自分で買い物に行きたいという潜在的な欲求はあると思う。そのような方にも買い物ツアーはいいのではないか。

課題を具体的にとらえるためには、どのような調査をどこに行ったらよいかという点については、市社協職員は日ごろ参加している会議や団体からの情報収集に偏ってしまわないように、その他のところへの調査も行う必要があるのではないか。例えば、民生委員の方々は高齢者実態調査の聞き取りが終わったばかりでかなり情報をお持ちではないか。

また、地域包括支援センターも何年か前に1回ケアプランの全件調査をしている。どの地区で誰が要支援の方のサービスで何件の買い物支援等しているというのを把握している。そのデータは活用できるのではなか。

さらには、商店への聞き取り調査を2層の方にしていただき、実際に買い物している方の傾向や商売のあり様が変わってきているので実態把握をしてはどうか。

## ○「3グループ」：テーマ2 居場所づくり

高齢の方はどんなところに行っているのか、という点については、病院や習い事などの教室、友人の家、犬の散歩（動物を飼っていると散歩のとき公園などで会いお互いの家に行く。）高齢者のサロン、地域のお祭りなど。スーパーの買い物に出かけた時は、休憩スペースに座っていても交流が深まるという意見があった。

次に、なぜ出られないのか、という点については、移動手段という視点で、運転ができない。車の駐車場がないのでそこにはいけない。タクシー代がない等経済的な理由。認知症になりかけで道がわからないのでいけない。という点が挙げられた。

次に、世代間のつながりがないという視点では、地域の交流が希薄。男性で現役の時に地域活動に参加していない方は友人が地域にいないため、どこで何をやっているのかわからない。という点が挙げられた。

さらに、意欲がないという視点では、そもそも習い事への意欲がわからないという気持ちの面や、ご家族を介護している方の中には介護疲れで外出ができないという方もいる。このように、意欲の視点で考えると、地域のサロンに参加することで気分転換になり元気になる方もいるかもしれないが、意欲がない場合は参加しない（できない）。という点が挙げ

られた。

課題を具体的にとらえるためには、どのような調査をどこに行ったらよいかという点については、病院に通っている方でも、待合室が交流する場となっていてサロン化しており、待合室や薬局で話をすることが楽しみになっている。病院や薬局に来ている人にアンケートを取ってはどうかという案があった。

#### ○「4グループ」：テーマ2 居場所づくり

高齢者が行く場所は、どういう場所があるのかという点に関し、旧住民と新住民で行く場所が違うのではないかと。古くから住んでいる方は浜降際など地域とのつながりのあるところで、新しい方は公園や図書館もあるがスポーツセンターという意見が多く出た。健康な方はいいが、そうではない方は行かれないので、調査をするときに健康度を入れて、範囲とか移動の手段などを調査するとよいのではないかと。

いろいろな所でサロンが開かれているが、物理的にサロンを開くことができる場所が少ない。茅ヶ崎市では空き家活用が問題になっている。残念ながら茅ヶ崎市では耐震補強の補助がない。横浜市では街普請事業等がありそれに対してお金が出る。それは予算化の問題がある。また、空き家の貸し手と借り手をつなぐコーディネートの組織、東京などいくつかあるが、中間支援をするコーディネーションも必要であろう。

また、ジェンダーの視点だが、女性はいいのだが問題は男性。男性の利用を爆発的に伸ばしたのが横浜市の地域ケアプラザで、アナログレコードをかけながらサイフォンコーヒーを飲むという企画である。もともと数%から一気に30%に伸ばした成功事例もある。男性の参加率を上げるには企画の内容や参加のデザインが大切ではないかと。

次に、娯楽的要素がその場所にあるかを調査するときに加えたい。

福祉計画には商店街との連携があるが、また、横浜の事例だが、商店街の中にお休み処（兼）情報センターができているところが増えてきている。商店街活性化と外出先の改革を合わせた相乗効果が生まれる場所として商店街との連携というのをもっと進めてもいいのではないかと。

最後に、私自身（小山氏）の専門でもあるので追加すると、外国人の話が話し合いの中では全く出てこなかったが、今外国人が0.74%ぐらい茅ヶ崎に住んでいる。実際、子育てセンターにヒアリングをするとかなり外国人の親子が来ている。その辺の視点が、総合計画委に抜けおちている。これからはその視点も考えるといいのかなと思う。ちなみに荒川区は8.7%でヨーロッパ並みである。

## 7 閉会

茅ヶ崎市福祉部 熊澤 克彦 部長

限られた時間の中、解決に向けた取り組みの提案まで示していただきありがとうございました。買い物支援と居場所づくりは大変重要なテーマであったと思います。これらは間

違いなく全市的な課題であると考えています。今日いただいたご意見、アイデアについては事務局のほうで取りまとめをして整理した中で第2層のほうにフィードバックしていきます。といっても解決策は地域の実情によってさまざまであり必ずしも一つではありません。これを持ち帰った中でその地域の実情に合ったより良いものを構築していくのもまたこの事業の一つの大きな目的ですので、今後も第1層と第2層が連携し、地域とキャッチボールしながらより良い地域の形を構築していければと考えています。

本日はお忙しい中、長時間にわたってありがとうございました。

## 第1層協議体 1グループで出た意見 テーマ「買い物が困難」

### 1 「買い物が困難」な理由としてどのようなことが考えられるか。

#### ○身体・健康に関すること

- ・腰痛・膝痛があり歩くことがつらい
- ・買い物に行って帰るので疲れてしまう
- ・商品に書かれた文字（値段）が小さい
- ・一人で行ってもなかなか決められない
- ・重い荷物が持てない（複数意見）

#### ○移動手段に関すること

- ・移動手段に乏しく、気軽に買い物に出られない
- ・一人では電車・バスに乗るのが難しい
- ・最寄りのスーパー等まで遠く徒歩では困難
- ・大型店舗が出来たことにより交通量が増加し、高齢者は移動しにくくなった
- ・車の運転をやめた

#### ○買い物環境・店舗に関すること

- ・食料・日常生活用品・衣類等、1か所行けば希望するものが購入できる場所がない
- ・大型の商業店舗（テラスモール）ができて便利になった反面、小さな商店がなくなったため高齢者は買い物がしづらくなった
- ・売り場が広いため買いたいものが見つけにくい
- ・行きなれた店が変わって（無くなって）しまう
- ・以前は国道一号に生協があり、顔見知りの関係があったが。それが見守りの役割も兼ねていた。大型店舗にはそのような関係がない。
- ・知らない食材など食べ方を聞く人がいない
- ・生鮮食品はまとめ買いが出来ない

#### ○各種サービスに関すること

- ・生協が遠くなり宅配に切り替えるように言われたが、システムが理解できていない。  
（注文書を出しても翌週にならないと届かないので混乱してしまう。）

## 第1層協議体 2グループで出た意見 テーマ「買い物が困難」

### 1 「買い物が困難」な理由としてどのようなことが考えられるか。

#### ○移動距離や経路に関すること

- ・歩いていくのには遠すぎる（スーパー・ドラッグストアなど）
- ・歩いて買い物するのが困難。自分（亀山会長）の実感としては、時間は15分位まで、距離は1キロ以内。
- ・買い物で通る道路が危険である。南湖地区は縦に長いエリアであるが、JR東海道線・国道1号が横に走っているため横断が困難である。
- ・南湖地区の住民の多くはハマミーナを利用しているが、2～3日分の買い物となると両手で買い物袋をぶら下げて歩くことになる。

#### ○移動手段に関すること

- ・近くのスーパーには行くが遠くのデパートに行く機会がない。（車がない）
- ・自転車・車の運転をやめた高齢者は荷物を運ぶ手段がない。また、自転車に乗れる高齢者でも荷物を載せて乗るのが怖いと感じている。
- ・車・自転車がないため、タクシーを利用したいがお金がない。
- ・自転車に荷物を載せると重みが増すため運転が怖い。

#### ○身体機能や気持ちに関すること

- ・重い荷物を持ってない。
- ・重い荷物を持ってないため、まとめ買いが出来ない。
- ・身支度（特に女性）が面倒である。
- ・耳が遠くなっているのと、車が静か（特に電気自動車）になっているため、周囲の状況が把握しにくくなっているため怖い。
- ・マンションにエレベーターがないため荷物を持って階段を上るのが大変。

#### ○店舗に関すること

- ・店舗が大型化していて陳列が分かりにくい。
- ・日用雑貨が大型化（パッケージ売り）している。
- ・配送サービスを行っていることを知らない（知られていない）。

#### ○各種サービスに関すること

- ・ボラセンに依頼することが年々多くなっている。
- ・買い物をヘルパーに頼めばいいと思っている。（自分で商品を見て選ぶことが重要）
- ・インターネットでの通信販売を利用したいが利用の仕方が分からない。

### 2 課題を具体的にとらえるために、どのような調査をどのように行えばよいか。

- 各高齢者の実情について把握するためには、直近で民生委員が行った実態調査の情報を活用してはどうか。
- 地域包括支援センターから市へ提出しているプラン調査の分析をしてはどうか。
- 各店舗への聞き取りをしてはどうか。

## 第1層協議体 3グループで出た意見 テーマ「居場所づくり」

### 1 高齢者の外出先はどのようなところがあるだろうか。

- ・友人の家
- ・犬の散歩
- ・病院（複数意見あり）
- ・カラオケ
- ・地域の祭り
- ・スーパー（の休憩スペース）、
- ・子どもの家
- ・ちょっとお茶ができるところ
- ・高齢者サロン
- ・お教室
- ・習い事など

### 2 外出しないのはどのような理由が考えられるだろうか。

- ・自身が家族を介護しているため介護疲れがある
- ・身体的につらい（からだの痛み、機能など）
- ・そもそも意欲がない
- ・車が運転できない
- ・駐車場がない
- ・お金（タクシー代）がない
- ・どこでなにをしているのか分からない
- ・認知症による道や日程が分からなくなるため
- ・友人がいない
- ・地域のつながりが希薄になった
- ・男性は特に地域活動に参加していない
- ・世代間のつながりがない（自治会未加入者）
- ・電話連絡が出来ない（プライバシーの問題）

### 3 課題を具体的にとらえるために、どのような調査をどのように行えばよいか。

病院に行くという声は多い。そうした人達にアンケート調査を実施してはどうか。  
また、薬局の活用はどうか。



## 第1層協議体 4グループで出た意見 テーマ「居場所づくり」

介護認定を受けていない65歳以上の高齢者へのアンケート（計画に関する調査p35）の結果、社会参加を何もない人が、36.9% 40%弱いる。これは、②外出しない理由と関係すると考えられるので、その背景や要因も意識してほしいことを説明した。

- 1 高齢者の外出先はどのようなところがあるだろうか。
- 2 外出しないのはどのような理由が考えられるだろうか。
- 3 課題を具体的にとらえるために、どのような調査をどのように行えばよいか。

（主な意見）

- ・地の人と転入してくる人では、行く場所・居場所が違うのではないかと。例えば、地の方は浜降際を中心に自治会活動のため月に何回も参加している。転入してくる人は、スポーツジムやカラオケに行っている人も多い。介護予防事業に参加している人も多い。公園やカラオケ、カフェなどもある。
- ・昼カラオケやコンサート、サロン、近所の人の家、公民館、スーパーのゲームコーナーなどがある。楽しみがあるか、趣味と一致しているかでも違ってくるのではないかと。
- ・スポーツジム林などでは、高齢者向けの集まりがあり、毎日のようにきている人もいる。また、女性はいろんなところに出向くが、男性は参加しないので、男性が参加するものが必要ではないかと。
- ・行政は空き家を活用しろと言うが、耐震テストに適應する空き家となると、お金がかかり、地域で活用するのは難しい。またそれを貸してくれない。
- ・図書館や美術館も良い。運動しない人などにとっては浮世絵展などもありとても良かった。東海岸地区には神社や自治会館がないため、地域の方の気持ちをひとつにする場所がない。老人クラブだけではなかなか人は集まらない。老人クラブへの入会を積極手的に勧める。
- ・高齢者にはどこにいけば良いのか伝わっていないところもある。

⇒キーワードとして、「地の人、流入してくる人」、「神社など集える場の有無」、「虚弱化・・・健康状態」、「男性・女性など性差」、「娯楽的要素の有無」、「予算、人材として繋ぐ役割・運営する人」が挙げられている。これらは、今後の調査や新しく集える場や居場所を検討する際の視点として重要ではないかと。

- ・市の空き家率、空き家件数、耐震工事に必要なデータをもとに、空き家に関する内容に調査を追加する。空き家をかしてくれる人やそれをコーディネートする人、つなぐ人が必要ではないかと。
- ・横浜市や東京都の事例では、商店街のお休み場所があると高齢者が集まり話をした後、買い物もするので、商店街の活性化にもつながる。
- ・子ども食堂で高齢者が料理を作ったりすることもよい。健康状態によっては、小規模多機能もある。

⇒先ほどのキーワードに、こどもとのつながりや子どもへの支援として「多世代の交流」の視点を加える。

- ・高齢者への情報提供、周知方法によって参加者は違ってくるので、視点として、高齢者に届ける情報、周知方法も重要である。
- ・全体のこととして老人クラブなど代表する名称の検討。

○居場所・病院、介護予防事業としての転倒予防教室、歌体操教室、歩こう会、友人宅、コンサート・イベント  
商店街のお休み場所、空き家の活用とそれをつなぐ人。